

お詫びと訂正

この度は、『福祉実践プログラムにおける参加型評価の理論と実践』をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本書 p.245（表 6-6）、p.246（表 6-7）の一部数値に誤りがありました。また、それにもない本文にも訂正がございます。謹んでお詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正いただきますようお願い申し上げます。

【p.245】 表 6-6 F 地域活動支援センターの Recovery Assessment Scale の 5 項目目
(誤)

	n	最小値	最大値	平均値	標準偏差
手助けを求めるのをいとわないこと	19	13.0	37.0	28.84	5.3
合計				97.42	4.1

(正)

	n	最小値	最大値	平均値	標準偏差
手助けを求めるのをいとわないこと	19	7.0	19.0	14.32	2.7
合計	19	50.0	100.0	82.89	13.8

【p.246】 表 6-7 F 地域活動支援センターとピア・サポート調査の比較の 5 項目目
(誤)

リカバリー	F 地域活動支援センター	備考 (ピア・サポーター調査) 研修前 / 研修後
手助けを求めるのをいとわないこと	28.84	15.19 / 15.74
合計	97.42	89.98 / 94.54

(正)

リカバリー	F 地域活動支援センター	備考 (ピア・サポーター調査) 研修前 / 研修後
手助けを求めるのをいとわないこと	14.32	15.19 / 15.74
合計	82.89	89.98 / 94.54

【本文修正箇所】

	<該当箇所>	<正>
p.246 上から 1 行目	結果はリカバリー評価尺度全体の合計が 97.42 であった。	結果はリカバリー評価尺度全体の合計が <u>82.89</u> であった。
p.246 上から 4 行目	F 地域活動支援センターの合計は、ピア・サポーターの研修前後のいずれに対しても高い値を示している。「手助けを求めるのをいとわないこと」が 2 倍近く高い値を示しているのが特徴的であり、それ以外はすべて低い値となっていた。	F 地域活動支援センターの <u>各項目および合計は、ピア・サポーターの研修前後のいずれに対しても低い値を示していた。</u>